

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ボルジギン・ムンクバト

氏名のローマ字表記：**Monkbat .N.B**

所属：千葉市公立小学校

専門分野：社会言語学、教育人類学

発表のタイトル：言語と文字使用に関する社会的葛藤—内モンゴルもにおけるモンゴル文字使用の事例から

発表要旨（600字～800字程度）：

本書では多民族がせめぎ合う背景における言語や教育に関する様々な葛藤について分析する。ロシア領内のブリヤート共和国とカルムイク共和国における文字使用、中国領内の内モンゴル自治区と新疆ウイグル自治区における言語と教育の問題、多言語化進む日本における取り組みや在日朝鮮学校の母語教育の実態との比較、滞日外国人や児童生徒の日本語習得状況の観察などを通して実態を取り上げて分析する。戦争などによって罪のない子どもたちの日常生活が脅かされていく。地政学的にも大きな変化が起こりつつあり、様々な課題に立ちはだかる。

ユーラシア大陸に広く分布するモンゴル諸族の文字使用採用にかかわる 100 年間の歴史を概観することによってモンゴル諸族の文字使用とその教育は、それぞれの国や地域で政治や政策による影響が大きかったといえる。ありとあらゆる面で悲劇に見舞われた歴史でもあった。そして、モンゴル国における伝統モンゴル文字の導入に新たな展開を見せ始める。各界からの注目を浴び、今後の進展が大きく期待される。文化の継承者である子どもたちの家庭環境と学校生活の状況に関して、彼らの日々の生活に目線に向け、その実態を描く。また、多言語化が進む日本において、滞日外国人児童生徒に対する日本語学習指導に関する様々な葛藤の実態について実践を交えながら明らかにする。外国人児童や保護者も、ホスト社会も様々な葛藤を抱えていることがわかる。

言語と教育をめぐる様々な葛藤を地域横断的にみることによって社会現象として捉えることができる。それはそこの生きる人々の精神の戦いである。彼らは言語的、文化的、意識的に矛盾に満ちた極地に立たされ、アイデンティティに秘める自我との語りは数々の政策等によって変貌つつあると言えよう。